

令和6年度第1回横須賀市文化振興審議会 議事概要

日時:令和6年(2024年)10月15日(火)

14:00~15:45

場所:市役所3階302会議室

【出席委員】 秋岡委員、石川委員、崎山委員、芳賀委員、蛭田委員
山本委員、吉田委員、若江委員、

【欠席委員】 藤井委員

【事務局】 文化振興課 松田課長、杉山主査、遠藤主任

【傍聴者】 1名

<配布資料>

資料1 令和5年度文化振興基本計画進行管理結果報告書(案)

資料2 令和5年度文化振興課の主な取組

資料3 文化振興審議会委員名簿

資料4 横須賀市文化振興審議会規則

<議事内容>

開会

会議の成立(委員9名中、8名出席のため、会議は成立)

傍聴者の人数報告(1名)

議事

1 委員紹介

事務局より委員の紹介

2 委員長および職務代理者選出

芳賀委員が吉田彩子委員を委員長に推薦し、出席した全委員から吉田彩子委員を委員長とすることについて承認された。

委員長が山本委員を委員長職務代理者として指名した。

3 文化振興基本計画の進捗状況について

事務局より資料1・資料2を説明

(主な意見等)

- 委員 資料1の中で、追加という項目がありますが、どの時点からの追加ということになるのでしょうか。
- 事務局 元々、各部署で行ってはいたが、過去、令和4年度の進行管理結果報告書には記載していなかったものを「追加」としています。
- 委員 追加という項目はとてもよいと思います。特にYOKOSUKAビジョン2030との連携という意味で、子育てしやすいまちになるためにも、子ども達を育てる文化活動が行われている様子が見えているように思います。
また、文化振興基本計画の中の市長のメッセージに「エンターテイメント」という言葉が出てきますが、それも一部ではあります。が、組み込まれているのはよいと思いました。
欲を言えば、子育てに関する部分で、生涯学習の追加は多いのですが、教育関係の追加はあまり多くないように思います。内容としてはいいと思いますが、もう少しそのあたりのバランス、子ども達に関する新しい企画というものがあってもいいように思います。
エンターテイメントという部分についても、新しいものはありますが、これで十分なのか、満足度がどのくらいなのかを知りたいところです。その満足度に合わせて、増やしていくものなのか、新しくなってくるのかというところが気になりました。
全体的には、とてもよい報告だと思います。
- 事務局 評価いただきまして、ありがとうございます。
先ほどの説明にもありましたが、以前からの項目が非常に多いのですが、新しい文化振興基本計画になりましたので、新しいものを追加しています。
前回の計画期間が8年間と長く、途中で拾えないものもありましたので、今回、増やしていったところがあります。
また、エンターテイメントに関する部分ですが、文化振興課自体

の取り組みとしては、「はぐくむ」、「そだつ」に関する部分が多いのですが、「ひろがる」という部分では文化スポーツ観光部としては観光課や企画課という部署を中心に取り組むものがありますが、端的なものがルートミュージアムの事業になります。例えば、ティボディエ邸で言いますと、ヴェルニー公園でのりものフェスタというイベントを行っていますが、イベントと連携して、ティボディエ邸周辺を盛り上げて、お客さまにティボディエ邸を知っていただき、館内に入ってくださいということさらさら続けて、来館者数を増やしていきたいと思っています。

委員

資料の中でお伺いしたい点があります。

出前授業という取り組みがあるのですが、令和4年度は9校だったものが令和5年度は2校になっていますが、何か減っている理由はありますか？

アーティスト村の取り組みについて、3人とのことなのですが、もう少しいるように思うのですが、いかがでしょうか。

米海軍基地の中での大学のプログラムですが、13人から8人に減っています。教育旅行の誘致、民泊体験というものも人気があったと思うのですが、そのあたり、状況がいかがでしょうか。

事務局

出前授業については、令和5年度2校とありますが、回数としては2校で、4回、伝統芸能に関するものを行っています。

減った理由は、わからない部分があります。

これまで、歴史を中心に行っており、小学校6年生の歴史の授業や小学校4年生の総合学習の時間を想定し、年度当初に全校にお知らせをし、希望校を募る形を取っています。秋から冬にかけて近現代の授業が行われますが、学校の授業カリキュラムと周知する時期が合わないことも考えられますので、社会科の先生の集まりなどでも出前授業の取り組みを周知していきながら、件数を増やしていければと思います。

アーティスト村の取り組みは、始めてから6、7年経ちますが、アーティストの方に住んでいただくことが条件になり、また、地域の住民の方とも交流していただくことになります。陶芸家の方が最初に入られて、その後に2人入りました。また、漫画家・小説家の方も関係アーティストということで1人いらっしゃいます。印象としては、ゆっくりかもしれませんが、着実に進めて

いるという状況です。

教育旅行の民泊ですが、主に長井地域で農業体験等を通じて、学生を受け入れるというのですが、こちらもコロナの影響でほぼゼロになったという状況を聞いています。また、受け入れ先が激減し、かなり苦勞されていたということも聞いています。農業体験をするにしても、生産者の方の世代交代や高齢化で農業をやめられているという方もいらっしゃいますし、体験でも学校側の希望と受け入れ側のマッチングの部分でうまくいかない場合もあるものと思います。令和5年度は7校ということですが、少しずつ増えてきたというところです。

事務局

補足として、過去の数字の話になりますが、米海軍基地の大学での英語学習プログラムについては、コロナ禍前の話では、平成30年度が25人、令和元年度が21人で、コロナの影響のある令和2年度は10人、3年度は11人と減っていました。民泊については、令和2年度、3年度はコロナ禍の影響で中止をしています。平成30年度は13校で900人近く、平成28年度は17校で1800人くらい参加があったということで、コロナ禍の影響で受け入れを中止していたものが、少しずつ戻っているという状況です。

委員

美術館のワークショップですが、人数は確認されていますか？

事務局

今回の進行管理表の中では人数の確認はしていないので、美術館に改めて、確認したいと思います。

委員

方向性という部分がどれも「継続」なのですが、例えば、今後、重点的に伸ばしていきたいものであるとか、もう少し差が出てもいいのかなと思います。これだけいろいろな取り組みを行っていらっしゃるのに、参加者が伸びて欲しいと思いますが、告知や周知に関しては、まなびかんニュースで情報を少し見る程度のように感じますが、いかがでしょうか。

事務局

告知に関しては、まなびかんニュースはかなり記事を書かせていただけるので、大きい取り組みから小さい取り組みまで掲載いただいていると思います。

広報よこすかについては、紙面の都合もあり、文化スポーツ観光部の取り組みでも掲載できないものも多くなっている状況があります。

LINE 等の SNS による情報発信や報道発表を通じて、記事にさせていただけるよう新聞社の記者の方に情報をお伝えすることを行っています。一方で、文化振興課の取り組みの場合、例えば、定員 20 名など、人数が限定されるものなどは事前になかなか掲載されにくい部分はあるように感じます。

いろいろな広報手段を組み合わせながら、告知や周知には取り組んでいきたいと思えます。

ティボディエ邸やルートミュージアムについては文化振興課としても、市としても重点的な取組の 1 つとして、観光と連携しながら取り組んでいます。

ティボディエ邸の存在を知っている人が、少ないと思っています。ヴェルニー公園や軍港めぐりに来た方に少しの時間でも立ち寄りいただきたいため、目立つようなイベントを行って、お立ち寄りいただき、館内に入って、市内の興味のあるサテライトに行ってもらいたいと思っていますので、継続していくことが必要だと考えています。

方向性に関する点ですが、基本計画では矢印で示している中で、上向きのものが今後の方向性として伸ばしていきたいものなので一つの指標になると思えます。

また、横須賀再興プランという市全体の実施計画があり、その中で文化スポーツ観光部としては、ルートミュージアムの推進、ダンスプロジェクト、街なかミュージック、横須賀美術館の集客力の向上といった取り組み等が重点的な項目となっています。

委員

私が気になっているのは博物館です。特に人文系のものが令和 4 年度、5 年度が何も書いてありません。昨年、2023 年はペリーの浦賀来航から 170 年という年にあたっていましたが、何の企画もありませんでした。久里浜のペリー記念館もできて以来、まったく展示が変わっていません。やはり、横須賀の歴史の中で、ペリー来航はとても大きなもので、ペリー来航があったからこそ造船所、製鉄所という流れがあり、現在の横須賀に繋がってくる歴史があります。そこのところが弱いと思っています。横浜は今年がペリーの横浜来航 170 年ということで、横浜市歴

史博物館や開港資料館、神奈川県立歴史博物館でイベント展示を大きくやっていますが、横須賀では全く感じられませんでしたし、収集物も何もないということは何か停滞している、何をしていたのかと言いたくなります。これからいろいろなことをやっていくにしても、館長がいないことは大きな問題になってくるのではと思っています。

事務局

博物館の収集に関しては、文化振興課からはお答えが難しいところですが、博物館の館長がいないという点に関しては、専門家の館長がいないという意味合いとして受け取らせていただきます。他の博物館では、専門家の方が非常勤や特別職という形で館長をされているところが多いということは認識しています。

また、在籍する学芸員の専門という部分で、すべての時代や分野をカバーすることはできないことがあるものと思います。特に、本市の博物館の場合、自然の分野もありますし、経緯としても自然の分野が強く、後から歴史が加わったという経緯もありますので、難しい部分もあると推察します。委員のご意見については、博物館にも伝えたいと思います。

委員

ペリー関連の資料に関しては、下田のお寺がたくさん所蔵していますし、横浜市の場合は六浦藩の資料が残っているようですが、横須賀はどうかと言うと、あるにはあるけれどというところではないかと思っています。資料を多く集めれば良いということではないですが、力を入れれば、まだ何かできることはあるのではないかと思っています。

例えば、飯島虚心が明治に出している『葛飾北斎伝』によると、葛飾北斎が浦賀に住んでいたと書かれており、誰もが知っている葛飾北斎は横須賀との関係性を持っている。北斎の作品にも横須賀が出てくるものもあります。

また、横須賀美術館で数年前に行った「長島雪操展」はとてもよかったです。作品や資料なども散逸してしまっているというところも聞いています。そういった横須賀の特色となるようなものについて、これまでと少し見方を変えて、三浦半島を一周すれば近代がわかるというような発掘もしていく必要があるのではないかと考えます。

委員長 人文系が少し弱いということですよ。世界中でそうなっているように感じますが、あまりいいことではないと思いますので、ペリー以外の分野も発掘する必要があるのではというところですよ。

事務局 「長島雪操展」は見に行きましたが、市に資料が残っているということを改めて認識しました。横須賀市の場合、美術館に特色があるものを所蔵しているという部分もあるのかもしれませんが。以前、横須賀美術館で錦絵の展示を行っていたこともありますので、美術館を含めて、伝えたいと思います。

委員 横須賀市制 100 周年ということで、『横須賀市史』を作成しました。その後、毎年 1 ページでもよいから作っていくのかなと思っていましたが、市史編纂室を閉じてしまい、今は何もやっていないという状況です。今の状況が続きますと、例えば、150 周年を迎える時に、慌てて、何かをやらなといけないということになり、そこから資料を集めることはとても大変なことのようだと思います。きちんと積み重ねていくことが文化であり、蓄積が大事であると思います。このあたりのことは文化振興としては大切なことで、声を大にして強く意見を言わないといけないことだと思っています。

事務局 現在、図書館の中に郷土資料室がありますが、当時の市史編纂室に比べますと、規模は小さくなっています。郷土資料室は、郷土資料の受け入れや研究を行っています。また、アーカイブとして、近代の絵はがきなどを中央図書館のホームページからご覧いただけるような作業を着実にやっているところです。今後、改めて、市史を作る可能性はあると思いますし、150 周年の時に改めて歴史の評価を見直すこともあると思いますので、委員のご意見に関しては、文化振興課としても伝えていきたいと思っています。

委員 資料 2 を拝見しますと、市民文化祭が紹介されていて、その後「市民音楽のつどい」、「市民合唱のつどい」、「組曲横須賀」、「カジュアルコンサート」、「ファミリーコンサート」ということ

で、音楽のジャンルが紹介されています。

市民文化祭には美術部門や文芸部門などあると思うのですが、こういった音楽のものをなぜ市民文化祭という1つの大きな柱の中に入れていないのだろうかと思います。市民文化祭という大きなものに含める方が、市民の興味・関心をひくのではないかと感じます。また、出演している方たちも文化祭のために行っている、市の大きな柱の中で自分たちも歌っている、演奏しているというような意識を持ってくれるのではないかと思います。

また、市民文化祭にはスローガンみたいなものはありません。毎年、同じようなチラシが作成されますが、例えば、今年はこれに重きを置いている、がんばろうというような何かスローガンのようなものがあった方が市民の関心と呼ぶのではないかと考えています。

他にも、例えば、ダンスプロジェクトやアーバンスポーツなども文化だと思しますので、文化祭の中に組み入れられないものかなと思いました。

事務局

今回の資料は音楽分野を中心に作成していますが、次回以降はもう少し幅広く検討して、作成したいと思います。

文化祭については、長く続いているものが多いので、同じような形で進んでいるものが確かにあると思います。

スローガンのものにつきましては、演劇連盟の取り組みでは、毎年スローガンを決めて、演劇の団体が一緒にやっていくというところがあります。全体としては、生涯学習財団や文化協会さんと一緒に行っていますので、今後のやり方については検討していきたいと思っています。

文化祭として取り上げるかという部分ですが、団体として加盟されているものについて、市民文化祭として行っているものが多いですが、横須賀市という地域にこだわらずに活動しているものも多いのが現状です。例えば、ダンスなどは横須賀市というより、もう少し広いエリア、神奈川県であったり、関東であったりというエリアで活動されている場合も多いと思いますので、その場合、市域を中心とする市民文化祭というところとは馴染みにくいのではないかと個人的には思っています。現段階で取り込んでいくということはなかなか難しいと思いますが、広めしていく方策については検討していきたいと思っています。

委員

市民文化祭について、もっといろいろなところで市民文化祭というものが入り込んでいけるとよいと思いました。

今回、アンケートの結果が載っていましたが、アンケートの結果の数字が持つパワーはすごいと思いました。やはり、説得力がありますし、新しいことがわかってくると思いました。ただ、回収率が少ないので、回収率がさらに上がっていけば、もっといろいろなことがわかってくると思いますので、回収率を上げる何か良い方法があればよいと思います。

例えば、ベビーカーの方たちが多いイベントであれば、休憩時間をたくさん取るとか、催し自体に工夫がなされていけば、より満足度も上がり、充実した時間が過ごせるようになると思います。進行管理表については、以前のものに比べるととても見やすくなって、わかりやすいと思いました。取り組みとしては、子育て世代の施策が多く行われていますので、それが一つの方向性のよう感じました。

16 ページの文化の担い手の育成というところで、「街なかをステージとした音楽ライブ」、「アーティスト村の創出」という取り組みが追加であります。音楽ライブについては、大盛況で、横須賀市外からアーティストのファンの方が来られていることが多いと思いますが、この取り組みを通して、横須賀を発信していこうというものなので、PR としてはとても充実したものだと思います。動画の視聴者数もすごい数字だと思いますので、リアルタイムで見ているというより、アーカイブで保存したものを見ての方が多くのではないかと思います。アーカイブを残していくということはこれからはすごく大事だと思っています。

アーティスト村の取り組みに関しても、実際に行くと子ども達もとても楽しそうにしていますし、その楽しみをどう発信し、次に行ってみようというものに繋げていくか、どう広報していくかということだと思います。これからはアーカイブをいかに効果的に残していけるかも時代とともにやっていかなければいけないところだと思います。

先ほど、『横須賀の文化』という冊子を拝見したのですが、こちらにも1つの記録としてのアーカイブだと思いますので、66号まで出ているようですが、例えば、第1号から見直してみるとすごい面白いと思います。第1号ではこんな人がいた、こんなことを

やっていたというように、記憶を掘り起こすことでご高齢の方には刺激になるでしょうし、若い人にとっては昔の横須賀を知ることになるでしょうし、アーカイブによって世代間や時間軸を超えた関係性を作ることができれば、次のイベントや取り組みに向けたヒントになっていくように思いました。

アーティスト村の取り組みはとても面白かったです。個々のアーティストの方はアーカイブを残していらっしゃるのですが、なかなか検索でヒットしないので、何か体系的に横須賀市で出していただけるとよいと思います。

事務局

ご意見でありましたようにアーカイブは非常に重要だと思っています。イベントを行ってもリアルで見られる人も限られますし、後でじっくり見たいという人やもう一度見たいという人もいらっしゃると思います。もう一度見たいとだけ思えるようなイベントであれば、成功だったと言えるようにも思います。

ただ、具体的にどう行うのがよいのかは思いつかない部分もありますが、市民文化祭も含め、今後、記録を残していけるような方策を考えられればと思っています。

また、子ども向けのコンサートですが、こちらは午前中に行っています。理由として、小さなお子さん向けのものであれば、午後より午前中がよいという専門家の方のご意見もありました。時間も極力短く、休憩なしの1時間くらいで終わる内容となっています。また、以前は小劇場、ベイサイド・ポケットで行っていましたが、とても人気があり、二部制で行っていたので、会場を大劇場に移したという経緯もあります。引き続き、検証しながら、進化させていきたいと思っています。

アーティスト村に関しては、都市部で行っている取り組みになりますが、こちらと一緒に考えられるものがあれば、連携できればと思っています。

委員

資料を拝見しての感想です。文化振興課が携わっているところは継続されていて、尚且つ成果を出されています。本当にありがとうございました。

追加された項目に関しては、とても意義深いという印象を受けました。科学や自然に関する取り組みがありましたが、これから

の時代の子ども達には非常に必要な部分です。心配になったのが文化遺産のメンテナンスや活動に関する予算というものがほとんど入っていないことです。以前の審議会でも話に出ました文学碑について、この中には入っていないので大丈夫なのかな、増やして欲しいと案じてしまいました。学校教育との連携も必要になるのかもしれませんが、気になります。また、子どもの教育に偏っている印象も受けました。「文化の担い手」という部分ですが、子どもだけではなく、ベビーカー世代の方もたくさんいらっしゃると思います。子どもが文化の担い手になるには、40年、50年かかります。その前に、30代、40代の方々を担い手として育てるような方策が必要なのではないかと考えています。最後に、言葉が適切でないかもしれませんが、取り組み方が「障害者」「高齢者」「子ども」というように役所の縦割りになっています。今のダイバーシティ&インクルージョンの時代に、横須賀市が、なぜこのように縦割りの方策の進め方をしてしまうのだろうかと残念です。もう少しダイバーシティ&インクルージョンという考え方を取り入れたことをしていただきたいと感じました。

事務局

まず、役所の縦割りの取り組みになっているという点ですが、資料の作り方として、部署が前面に出てしまっているという部分はあると思います。こういった資料を作る際、どこが責任をもって取り組んでいるかという意味で、部署の名前を書くことは重要なことだと思っておりますが、それだけでなく連携して行っていることがもう少しわかるような形で資料作りができればと思います。どうしても進行管理一覧があり、部署別のものがあるという順番になっていますし、そういう印象をお持ちになられたのかとも思いますので、直せる部分があればと思います。文化の担い手に関しては、30代、40代から今は60代でも働いている世代です。どうしても文化の担い手としての活動、活躍する方が少ないのかと思います。例えば、スポーツをやっている方もいると思いますが、そういった方を文化に興味・関心を持っていただくことというのも今後必要でないかと思っています。その1つが街なかミュージックやダンスなのかもしれません。そのような要素や観光という視点も含めながら、文化を知っても

らうということかと思えます。例えば、花の国で花を楽しんでいただいた後に、少し足を延ばして、ペリー記念館に立ち寄っていただくというようなルートミュージアムの取り組みもありますので、その取り組みにもう少し力を入れなければというように思います、

文化遺産のメンテナンスに関しては、全体的な予算の中で厳しい部分が実情としてはあります。生涯学習の文化財の分野に限られている部分がありますが、文化振興の立場として、継続的に行えるように声を出していきたいと思えます。

委員 文化振興課の取り組みの1つのファミリーコンサートですが、こちらは障害福祉課と連携し、障害のあるお子さんたちへのご案内や座席の確保を行いながら、当日ご参加いただけるような取り組みを行っています。

事務局 元々、子ども向けのコンサートを文化振興課でやっていたので、障害福祉課から相談があり、みんなでやさしく見守ってくれるようなコンサートということで、連携しています。

委員 文化とは少し違うのですが、路面電車で町おこしをしている宇都宮市がとても参考になると思えます。路面電車の開業から1周年ということで、清掃のボランティアを募ったところ、抽選になるくらい申し込みがあったそうです。生活に密着していて、いつも見ているものを自分達できれいにしようということで、市としてはお金がかからずにできるような仕組みができたらいなと思えました。

事務局 例えば、花火大会などの観光イベントではイベント後に清掃のボランティアをとるものもありますが、そういったものも参考に見ていきたいと思えます。

委員長 文化の幅を広げていければという先に向かう議論をいただいたものと思えます。

委員 今まで作ってきた史跡や文学碑の案内板がいろいろなところにあるのですが、そういったもののメンテナンスを一度にやろう

とすると大変だと思います。それらが作られたのは高度成長の時代、昭和60年頃でゆとりがある時代だったのかもしれませんが。それを一度に戻そうとするから大変なので、少しずつ手を付けて、メンテナンスと新しいものの事業を両方合わせて、限られた予算でやっていけないかなと思います。新しいものばかり先走り、今までやってきたことはもう忘れてしまうというようです、市民の関心も及ばなくなってしまうものと思います。

委員長 とても建設的な意見をいただいたものと思います。

委員 旅行ガイドなどを見ることあるのですが、横須賀のことは記念艦三笠は載っているけれど、食べ歩きのような内容はあってもその他はあまり載っていないように思うので、もう少し新しいところが掲載されるといいと思います。正岡子規の話であったり、有名なスポーツ選手の話であったりというのを出版社と連携をして取り上げる方法があれば、もっと集客に向けたて取り組めるものもあるのではないかと思います。

委員 横須賀と音楽は非常に歴史があるものだと思いますので、ぜひ考えてもらいたいと思っています。
ペリー来航から日本の西洋音楽が始まっていますし、戦後もEMクラブが関わってきています。
海軍音楽隊の初代の隊長である中村祐庸(すけつね)さんという方が今の君が代に変えようという運動をされました。その方から始まり、瀬戸口藤吉、山田耕筰、團伊玖磨という流れが横須賀の中にはあるわけです。例えば、子ども達に君が代って横須賀でできたということを伝えるだけで興味が変わってくると思いますし、ペリーの軍楽隊が演奏し、行進する姿を見て、右手と右足が一緒に出るナンバ歩きから今の歩き方変わったというようなこともあります。
文化振興条例を推し進めた團伊玖磨さんがこの審議会の最初の委員長でもありますから、音楽のことは形として、何か1つ見えるものがあるといいと思っています。
美術館が成功してきている中で、音楽もそのような場所がぜひ必要なのではないかなと思っています。先日も三笠公園のレゲエで多くの人が集まったようですし、音楽というジャンルで何

か取り組むことも大事ではないかと思ひます。

事務局 音楽の歴史ということも考へていくというのは1つなのだと思います。例へば、今、横須賀芸術文化財団では30代、40代くらいの方をファン層とするアーティストを招いて、ライブハウスの的な活用を始めているところだす。

委員 原信夫とシャープスアンドフラッツの原信夫さんというジャズミュージシャンの方が横須賀に住んでいた時期があるそうだ、遺された吹奏楽の楽譜がたくさんあるそうだ、それを使つてもらいたいという話があるそうだ。横須賀は吹奏楽が盛んですし、ペリー来航のマーチングバンド発祥の地というようになこともあると思ひますので、何か利用ができないかなと思ひています。

4 その他

今後についての事務連絡を行った。

以上